

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年1月号 通巻1号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

## 東京タヌキタイムズ創刊！

新企画・東京タヌキの疑問質問を募集！



[左]1998年、東京都23区内で宮本が初めて見た運命のタヌキ。この時の遭遇からもう10年以上も経ってしまいました。(東京都世田谷区)

[右]書籍「タヌキたちのびっくり東京生活」(技術評論社)。撮影地は練馬区、西東京市、武蔵野市が接する千川上水の遊歩道。ここは23区の最高標高地点のひとつである。



全日本そして全世界のタヌキスキの皆様、こんにちは。

「東京タヌキ探検隊！」はこれまでホームページと書籍でタヌキ調査活動を紹介してきましたが、2009年からは新たに「新聞」という形式でも広報活動をすることにしました。それがこの「東京タヌキタイムズ」です。新聞といってもA4紙1枚、月1回発行なのですが…。このあたりが現在の宮本の時間の限界、ということなのです。本紙では毎月、東京タヌキにまつわる話題を紹介していく予定です。

本紙は「東京タヌキ探検隊！」のホームページにPDFファイルで掲載します。それをパソコンでダウンロードして読んでいただくのもいいのですが、プリンタで印刷してファイリングするのもお勧めです。

発行は毎月1日の予定…ですが、諸事情で遅れることがあるかもしれません。例えば年始とか。なるべくそうならないよう努力します。どうぞご支援よろしくお祈りします。

### 次回単行本のための企画!?

さて、2009年の新企画はもうひとつあります。東京タヌキについての情報は、書籍「タヌキたちのびっくり東京生活」(技術評論社)にだいたいい書いてしまいました。新たな研究成果を本にするにはまたしばらく時間がかかると思うのですが、その前に前回書き残したことや最新情報を紹介する軽めの読み物を書きたいなと考えています。

その新しい本のための企画として、皆さまから東京タヌキについての疑問を募集します。たいていの疑問については既に「タヌキたちのびっくり東京生活」に答えを書いているのですが、私が思いつかなかった疑問をお持ちの方もいるはずですので。その回答を本の中で書くつもりです。皆様の投稿をお待ちしています。詳細についてはホームページをご覧ください。

なお、この企画がいつ本になるかはまったく目処が立っていません。出版社のあてもありませんし…。ということで、出版社も募集しています(^\_^;)。

### 新分布図いよいよ発表

今回の「東京タヌキタイムズ」は、東京都23区内のタヌキの最新の分布図を紹介する予定です。2006～2008年の集計で、合計300件以上の目撃情報がまとめられます。2007年7月の生息分布図よりも精度が高いものになります。現在データ集計作業中です。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年2月号 通巻2号 毎月1日発行 購読無料

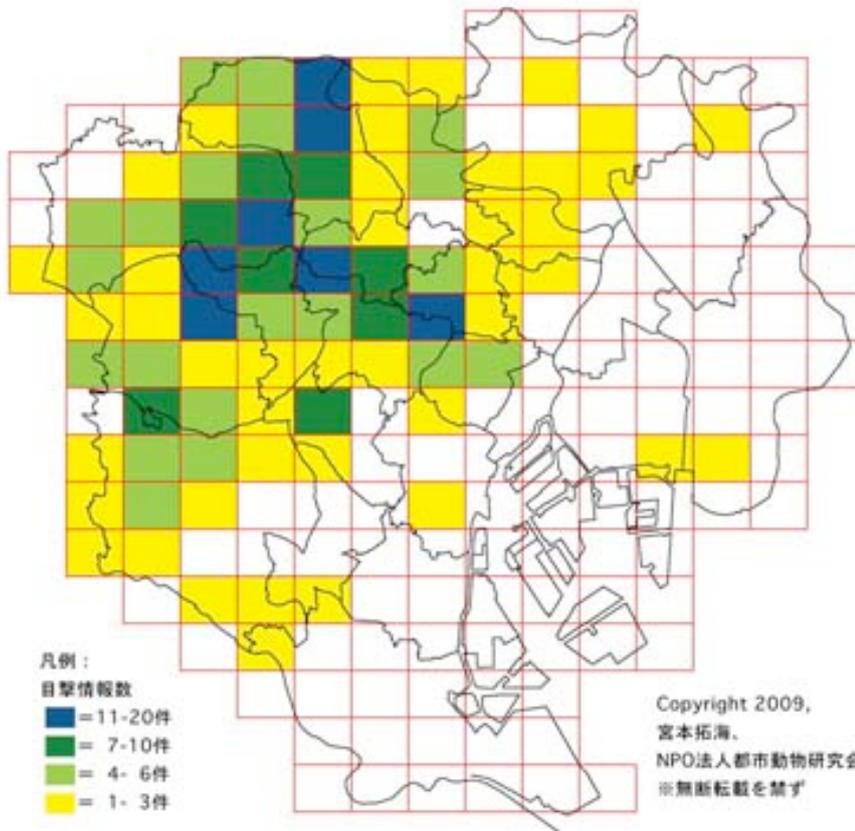
©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 東京都23区の最新タヌキ分布を公表

### 2006年～2008年の334件を集計

東京都23区 タヌキ目撃分布図(2006年～2008年)



がよりはっきりと確認できたと言えるでしょう。

区単位でタヌキの目撃件数が多かったのは、練馬区、板橋区、杉並区の順でやはり北西部の区がトップ3です。ところが、面積当たりの目撃件数では文京区、中野区、板橋区、新宿区の順になります。タヌキたちは都心部にも確実に生息しているのです。

報告書では他にも、ためフン、脱毛症状、イヌ・ネコとの遭遇、河川落下事故などについての事例を紹介しています。都会のタヌキの暮らしぶりをかいま見ることができるでしょう。

### 今後の予定

タヌキ、ハクビシン、アライグマなどの目撃情報の収集は今後も引き続き行います。東京タヌキの調査研究は皆さまの目撃情報によって成り立っています。これからも皆さまのご協力をお願いします。

次回の目撃分布の報告書は2010年1月を予定しています。今回同様、直近の3年間が対象になります。来年もお楽しみに。

2009年1月、「東京都23区内のタヌキの目撃分布(2009年1月版)」をホームページ「東京タヌキ探検隊！」で公開しました。2006年～2008年の目撃情報を集計したものです。目撃件数は334件になりました。情報を寄せていただいた皆さま、ありがとうございました。

今回は前回2007年7月版とは集計方法が異なるため単純な比較はできませんが、目撃件数はかなり増え、より正確にタヌキの分布を把握できていると思います。

また、今回は同時に「東京都23区内のハクビシンおよびアライグマの

目撃分布(2009年1月版)」も公開しました。こちらはハクビシンとアライグマの目撃情報を集計したものです(ハクビシン40件、アライグマ3件)。こちら合わせてお読みください。

### 最新の目撃分布図

今回の報告書も前回に続き、目撃分布のメッシュ地図を掲載しています[上図]。分布の傾向は前回同様に北西部に集中しています。タヌキは武蔵野台地の上に生息していること

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年3月号 通巻3号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 23区の住宅地にケラがいた！

### タヌキがお手柄大発見！？



[左]謎の節足動物の断片。モグラの前足にも似ているが、大きさは数mmほどなので、その可能性はない。定規の目盛は0.5mm。

[右]他にも多数見つかった断片(一部)。タヌキはいったい何匹のケラを食べたのだろうか。



タヌキの研究の中で、フンの分析はとても重要です。フンの内容物を調べれば何を食べたか知ることができるからです。特に東京都23区の場合は、都会のタヌキが何を食べているかを解明することができます。

#### 謎の断片の正体は？

2008年9月、私(宮本)は杉並区の住宅で採取したタヌキのフンを分析していました。念のために言うておきますと、フンをそのまま分析するのではなく、水洗いして残留物を調べるのです。残留物のほとんどは非常に小さいため、顕微鏡を使わなければなりません。

顕微鏡をのぞいていると、とても特徴的な物体を発見しました[写真左]。一瞬、私は「モグラの前足？」と思ってしまいました。しかし、大きさからいってそれはありえません。硬い外殻があることから節足動物のパーツであることは確実です。この形は昆虫ではない…と私は考え

ました。昆虫の脚にしては形が複雑すぎるからです。複雑な脚を持つ節足動物ならエビやカニがいます。しかし採取場所の近くには水場はまったくありません。それに形がエビにもカニにも似ていません。さらに他の残留物を調べていくと、同じような断片がたくさん見つかりました[写真右]。このことは、これが特殊な動物ではなく、数の多い普遍的な動物であることを暗示しています。

ここで私は考え直しました。これまでの状況を整理すると、やはりこれは昆虫と推理するのが妥当です。このように特殊化した脚を持つ昆虫は限られています。そう、例えばモグラのように地面を掘るような昆虫…。すぐに資料を探したところ、ありました！ このパーツはケラの前脚だったのです。

#### 都会にもケラはいる

ケラは「おけら」と呼ばれることもある、畑でよく見られる昆虫で

す。都会にはまずいないものと思われる昆虫でしょう。しかも採取場所は住宅地のど真ん中、畑などありません。では、タヌキはどこでケラを見つけたのでしょうか。現場周辺の状況から推理すると、おそらく学校の花壇・畑、民家の家庭菜園にケラがいたのではないかと考えられます。都会にはいないと思われがちなケラですが、おそらく23区内でも普通に生息しているのではないのでしょうか。それを発見した功労者は、もちろん東京タヌキです！

フンを分析すればタヌキの謎を解明できます。これからも時々フンの分析結果を紹介していく予定です。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

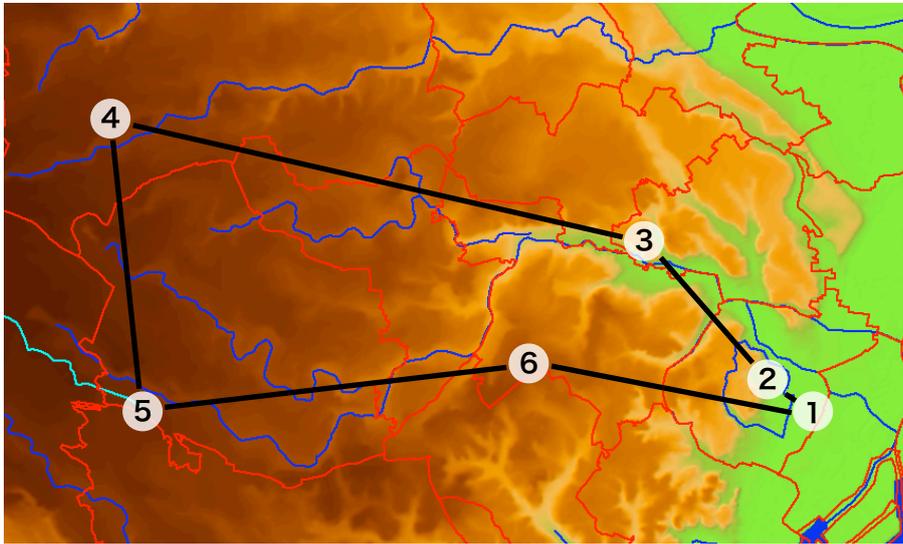
2009年4月号 通巻4号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 東京タヌキ架空バスツアー

タヌキは多分見れないけれど、東京の自然を満喫！



- [1]東京駅
- [2]皇居東御苑
- [3]椿山荘
- [4]石神井公園
- [5]玉川上水
- [6]新宿

1日がかりの長時間ツアーになります。観光バス・自動車向きの経路なので、残念ながら電車・路線バスでは効率が悪いです。

4月といえばエイプリル・フル。だからというわけではありませんが、架空の東京タヌキ・バスツアーというものを考えてみました。ただし、本物のタヌキを観察することは難しいので、タヌキが生息する東京の自然を訪れるのが目的になります。もちろんタヌキとも深い関わりがある場所ばかりです。

### 東京タヌキツアーに出発！

集合場所は東京駅前。そこでバスに乗りますが、最初の目的地は皇居東御苑です。皇居といえば天皇陛下が共同執筆されたタヌキの論文が有名です。皇居のタヌキは御所だけでなく、東御苑でも目撃されていますので、運が良ければ目撃できる可能性もちょっとだけあります。

次の目的地は椿山荘(文京区)です。椿山荘は神田川北岸の目白崖線に位置しています。目白崖線の一帯はタヌキの生息が多く、今年2月、

神田川にタヌキが落下した事件現場もすぐ近くです。特に椿山荘の庭園は手入れが行き届いている美しいものです。ご神木の巨樹もぜひご覧ください。昼食は椿山荘で食べます。

次は石神井公園(練馬区)です。三宝寺池の水生植物群落は国の天然記念物に指定されています。カワセミなどの水鳥も観察できるかもしれません。この一帯もタヌキの目撃が多い地域です。

次は環八通りを南下して玉川上水(杉並区久我山)に向かいます。玉川上水は江戸時代に作られた飲料上水路・農業用水路です。今ではその目的では使われていませんが、流路は緑地帯になっています。この付近では神田川、京王井の頭線も近くを並行しており、タヌキの分布もこれらに一致しています。

最後は新宿です。もう日が暮れているでしょうから、高層ビルの中で夕食をとりましょう。どのレストランにするのかはまだ調べていませんが、南側の明治神宮が見下ろせる店

舗が最適です。夜の都心は灯で輝いていますが、明治神宮の森は真っ暗で巨大なブラックホールのように見えることでしょう。その暗闇の中にタヌキは生息しているのです。

ツアーは以上で終了、新宿または東京駅で解散です。

### いつの日か実現できるか？

東京都心の豊かな自然を楽しむツアー、いかがでしょうか。参加希望者が多ければ本気で詳細を検討したいところです。はとバスのツアーにできたら面白そうなんですが、どんなものでしょうかね？

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年5月号 通巻5号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキが食べた人間由来物

自然のものも生ゴミも食べています



[左]ビニールラップ

[右上]ピーナッツ

[右下]ブドウの種

フンの採集は2008年9月、杉並区。定規の目盛はいずれも1mm。ちなみに2009年3月号で紹介したケラの脚も同じためフンから出てきた物。写真のピーナッツのように、フンの中では変色してしまうことはよくある。フンの内容物は乾燥して保存をしてある。そうしないと長期保存が難しいからだ、中には干からびて原形をとどめないこともある。

タヌキは雑食性で、動物も植物も食べます。そして都会のタヌキは生ゴミなども食べています。生ゴミのような人間に由来する食べ物を私は「人間由来物」と呼んでいます。書籍「タヌキたちのびっくり東京生活」では、私自身が分析したタヌキのフンの内容物を紹介していますが、サンプル数が少なく人間由来物はありませんでした。

### フンから出てきたモノ

昨年秋以降、幸運にも数ヶ月にわたってフンの採集ができ、さらに多くのサンプルを得ることができました。その中には人間由来物もありました。今回はそのいくつかを紹介しましょう。

今回取り上げるのは、いずれも同じためフンから同時に採集したフンの中から出てきたものです。フンの内容物はフンを水に溶かしながら取り出していきますが、なにやら大きなモノがすぐに現れました。明らか

に人工物で、とても薄いものです。慎重に広げていくと透明のビニール製だとわかりました。厚さから推測するとビニールラップのようです[写真左]。同じような大きな断片が他に2つ、小さな断片もいくつか出てきました。これは明らかに生ゴミをあさっている時に食べたものでしょう。

さらに作業を続けると別の大きなモノが現れました[写真右上]。変色はしていますが、これは明らかにピーナッツです！ このフンはどうも「当たり」だったようで、さらに肉眼でわかるモノが出てきました[写真右下]。これまた明らかにブドウの種です。大きさからすると巨峰でしょうか。

現場は住宅地で、近くにはブドウ畑もピーナッツ畑もありません。ですからこれらも生ゴミだったと推測できます。しかしまた別の推理もできます。家の庭に現れたタヌキにびっくりした住民が、手近にあった食べ物を放り投げてやった…という

可能性も考えられるのです。ピーナッツがゴミとして捨てられることは少ないだろうということを考えての推理です。

### 未解明の「食物問題」

東京タヌキたちがどれほど人間由来物に依存しているのかは今も未解明の問題です。食べた物のほとんどは消化されて形を失い、消化されにくいものだけが残るからです。そんな数少ない手がかりを元にタヌキの食生活の解明は進められるのです。どこかにためフンの情報はないか…と私は今日も情報を待つのです。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年6月号 通巻6号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## そろそろ子どもたちがやって来る

6月後半から現れます。でもあわてないで！



どちらの画像も撮影は2006年7月で、同じ個体。7月下旬なので成獣に近い大きさになっていますが、毛が短いことがよくわかります。見た目はまるで子犬です。6月ごろの子どもは、もうちょっとコロコロした感じですが、体の模様はタヌキそのものです。

タヌキの出産、子育てを観察するのは難しいものです。特に東京都23区ではタヌキは民家の床下や立入禁止の場所を巣として利用しているらしく、観察はますます難しくなります。それでもさまざまな目撃情報や過去のタヌキの研究から、23区内での出産はゴールデンウィーク前後だろうことは推測できています。この新聞が出る6月はちょうど育児の真っ最中なのです。

### タヌキは子だくさん

タヌキの赤ちゃんは生後しばらくは巣から出てきません。23区内では6月後半になると子どもたちが現れたという目撃情報が届き始めます。巣のすぐそばならばもう少し早い時期から子どもたちを見ることができるようです。

タヌキの子どもたちはかわいいのですが、目撃者を驚かせてしまうことがあります。それは、ぞろぞろとたくさん現れるからです。タヌキは

普通、4～8頭を出産します。これは東京タヌキでも同じです。つまり、子ども8頭+お父さんお母さん2頭で合計10頭も現れることがあるのです。いきなり団体で現れるので、「異常繁殖か!？」と思われることがあるようですが、これはまったく正常なことなのです。あわてて役所や警察に連絡する必要などまったくないので。

では、どうすればいいのでしょうか？ 答えは「何もしない」です。捕まえる必要も追い払う必要もありません。そもそも無許可で捕まえたら鳥獣保護法違反です。逆に食べ物を与えるなどの保護も必要ありません。何もせず、そっと見守るのがお互いにとって一番いいことです。

花壇を荒らされるなどの被害が発生することもあります。できれば追い払うのは少し待っていただけるとありがたいです。というのは、タヌキの子どもたちは成長するにつれて人間の近くには現れなくなるからです。そして秋が深まるころには親

元を離れて新天地へ旅立っていきま(居残り組も少しいます)。

### 夏はタヌキ観察のチャンス

タヌキは子育てに限らず観察が難しいものですが、子どもたちが現れる夏だけは例外的に観察しやすくなります。子どもたちは行動範囲が狭く、人間に無警戒だからです。つまり、これはタヌキ観察の絶好のチャンスなのです。

もしタヌキの子どもたちが現れたなら、ぜひその様子を観察してみてください。そして、東京タヌキ探検隊！にもご一方をお願いします。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年7月号 通巻7号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## お母さんは今日も腹ぺこ

### タヌキの個体識別はとても難しい



2007年7月撮影



2008年7月撮影

矢印の指す黒い点が乳首。撮影はいずれも東京都23区内の同じ場所。2007年の「お母さん」は体色がかなり黒く、2008年とは別個体であるのは間違いない(掲載の画像はコントラストを調整しているため、明暗は実際と異なる)。

タヌキ観察で個体識別ができれば、それぞれの性格や行動の違いが明らかになり、いろいろなことがわかるでしょう。ところが、個々のタヌキを見分けるのはとても難しいものです。個体識別をするには体の模様の違いに注目するのが一番ですが、はっきりとした違いはなかなか見つからないものです。しかも観察はたいてい夜、近づくのも難しいので細部までじっくり見ることはできません。さらに、冬毛と夏毛では印象がかなり変わるため、ますます識別は難しくなります。

そんな中でも例外的に個体識別ができることがあります。

### 乳首が見えた！？

昨年の夏、東京都23区某所でタヌキを観察していた私は、あるタヌキの脇腹に小さな黒い模様があるのを発見しました。暗い場所でもはっきりと見え、毛の一部が黒くなっているのではなさそうです。タヌキが近

づいた時、私はその模様をのぞきこんでみました。「んん…？ 今のは乳首!？」このタヌキは子育て中の親、乳首が見えるということは「お母さん」なのです！

乳首には子どもたちが吸いつくため、毛が薄くなって乳首が見えるようになるのでしょうか。タヌキもイヌと同じくもっとたくさんの乳首があるはずですが、一番後方の乳首はよく見えるようです。

お母さんがはっきりと判別できるようになった結果、新たにわかったことがありました。お母さんは子どもをなめる様子がたびたび観察されました。一方、お父さんはほとんど姿を現しませんでした。この場所はネコのエサ場でもあり、タヌキ一家がよく現れたのですが、お母さんはかなりひんぱんに姿を見せていました。どうも子育て中はかなり体力を使うらしく、おなかをすかしているのではないだろうか、と私は推測しました。

### 個体識別は最重要課題

タヌキは個体識別だけでなく性別の区別すら困難です。お母さんが判別できるだけでもタヌキ観察には大きな前進です。ただし、子育てが終わって秋になると冬毛が伸びてくるので乳首も見えなくなってしまいます。お母さんだと判別できるのは夏限定なのです。

個体識別は東京タヌキ研究の最重要課題のひとつです。ただ、そのためには長期間安定して観察できる場所も必要です。残念ながら23区にはそのような場所はなかなかないのが実情です。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年8月号 通巻8号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ [tokyotanuki.jp](http://tokyotanuki.jp)

## 雨の日のタヌキの過ごし方

### 豪雨で観察場所が水没の危機！？



豪雨の後、再び姿を現したお母さん。雨にぬれて毛がけば立っている。ぬれていなくても、夏毛の成獣は毛がぼさぼさした感じになっているので、短毛の幼獣と見分けることができる。

タヌキは雨の日は何をしていますのでしょうか？ 野生動物なら雨でも関係なく活動するようにも思えますが、実際は雨を避けてじっとしていることが多いものです。タヌキも同じで、雨の日はねぐらから出てこないことが知られています。でも小雨の日はどうなのでしょう。

タヌキを観察するなら天気の良い日を選びたいものです。機材や荷物がぬれるのはいやですからね。しかし、天気予報が外れたり、突然の局地的降雨は避けられません。また、雨の日のタヌキの行動を知るには、あえて雨の中に出て行かなければならないこともあります。

#### 集中豪雨で大ピンチ！！

例のごとく東京都23区某所でタヌキ観察していた時のことです。夕方から遠くで雷の音が聞こえる不安な空模様でした。いつものようにタヌキ家族が現れ、それを観察していたのですが…。間もなく雨が降り始

め、「雨足が強くなってきたな」と思っていたら、タヌキたちは全員、巣へと帰っていきました。なるほど「強い雨」だと外に出ないのだな、と確認することができたわけです。

私は引き続き現場にとどまっていたのですが、雨はさらに激しくなりました。あわてて荷物をポリ袋に包みぬれないように抱えました(傘は持参していました)。しかし非常にまずいことに、この観察地点は、雨水を一時的にためこむ遊水池でもあったのです。一帯は完全に水没してしまいました(といっても水深数cmですが)。私はベンチの上に荷物を抱えて登りました。ここなら水深が多少深くなっても大丈夫なはずです。多分…。どこにも動けないので豪雨の中を立ちつくすしかありません。

豪雨は1時間以上も降り続いた後ようやくおさまり、水は徐々に引いていきました。やれやれ、これで無事に帰れそうです。と思っていると、さっそくタヌキが1頭現れました。そのタヌキは一家のお母さんで

した。お母さんは雨で流されたネコのエサを探して食べています。やっぱりお母さんは腹ぺこなんだ、ということがここでも確認できたわけです。

#### 雨が降ろうと風が吹こうと

本格的な動物の観察は、天気に関係なく実行しなければなりません。タヌキの場合は雨天中止しても影響は少ないのでまだ楽です。しかも都会のど真ん中というのは気楽なものです。これが山奥や離島だったらとてつもなく過酷な研究になるでしょう。それが動物学の現場なのです。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年9月号 通巻9号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## ビデオカメラを買った話

### タヌキ観察には必須の道具



左がこれまでのビデオカメラの映像、右が新しいビデオカメラの映像(いずれも2009年8月撮影)。実際には新しいビデオカメラ映像の方が画素数が多く、細部もよりはっきりと見える。

今回はタヌキ観察の道具の話をしていきましょう。タヌキを観察できる機会は限られていますので、映像に残すことはとても大事です。記録するならカメラ(静止画)ではなくビデオカメラ(動画)にすべきです。カメラはある瞬間しか撮れませんが、ビデオカメラならばタヌキの一挙手一投足を記録できるからです。

問題は、タヌキ撮影はほとんど夜になってしまうことです。普通に撮影すると真っ暗で何も映りません。そのため夜間撮影機能があるビデオカメラを選ばなければなりません(実際にはそれでも光量が足りませんので懐中電灯も使用します)。

#### 9年間の時代の進歩

私がこれまで使ってきたビデオカメラはソニーのDCR-PC100という製品です。調べてみたら1999年の発売。買ったのは翌年ですので、なんと9年間も使い続けたこととなります。当時はminiDVテープが主流で、業務用ではない一般向けのビデオカメラでも十分に高画質な映像が

撮影できました。ところがこのビデオカメラ、今年になって録画ボタンがうまく動作しなくなりました。ついに買い替えの時が来たようです。

では、何を選ぶべきか。時代は流れて、今ではテープを使うビデオカメラは脇役です。タッチパネルやHDMI対応など新しい機能もあります。数ある機能の中での選択のポイントやはり夜間撮影機能があること、そして高解像度映像を撮るためにフルハイビジョン対応であることです。そうして選んだのは、ソニーのHDR-XR500Vです。今年発売の新しいモデルです。

さっそく現場で新品ビデオカメラを試してみました。その成果が上の画像です。これまではモノクロ映像でしたが、カラー映像が撮れるようになったのは大きな変化です。しかも解像度が高いので毛並みまでよく見えます。暗い場所ではノイズが増えてしまうのは仕方がないものの、研究には大きく役立つでしょう。

テープの残り時間を気にしなくていいのもありがたいことです。ただ、フルハイビジョンの巨大なデー

タをどうバックアップするのか悩んでいるところです。

#### 貧乏研究者の悲哀

ところで、勘違いをされている方が多いようですが、私はどこかの大学の先生でも研究所の人でもありません。つまりプロではなくただのアマチュアなのです。ですので費用はすべて自腹です。どこかからお金をもらっているわけではありません。平均以下の年収であれやこれやの機材を買うというのはかなり厳しいものです。かといって機材がなければ成果をあげることもできません。アマチュアの立場はなかなかつらいものです。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年10月号 通巻10号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 今日もどこかで柿食うタヌキ

### タヌキは果物が大好き



左＝フンの中やためフン場から回収したカキノキの種子。しわがあるのは水洗い後に乾燥させたため。

右＝ためフンの写真。訪れる頭数が少ないので、大きなためフン場にはならない。茶色に見えるのがカキノキの種子。

(2008年撮影)

タヌキは動物性も植物性も食べる雑食です。でも何でもかんでも食べるのではなく、やはり好みの傾向があります。タヌキが大好きなもののひとつは果物です。ちょうどこれから柿の季節ですが、タヌキはもちろん柿が大好きです。ちなみに、樹木である柿は和名では「カキノキ」と呼ばれています。学問上ではこれが正しい名前です。

### 今もあちこちにカキノキが

東京のような都会には緑は少ないものと思われがちです。まして、カキノキがそうあちこちにあるはずがない。そう決めつけられることも多いでしょう。

ところがタヌキの秋のフンを調べてみると、カキノキの種子が高い確率で見つかります。周辺地域を調べてみると、何ヶ所もカキノキを見つけてことができました。柿の実はとてわかりやすい大きさと色ですので、簡単に見つけられます。ちょっとした庭のある民家には樹木があることが多いのですが、その中にカキノキ

がある割合は意外と高いのかもしれない。これらのカキノキの内、どれをタヌキが利用したのかわかりません。しかし、タヌキがカキノキがある場所を知っているのは確かです。これらの民家を毎晩巡回しているのかもしれない。

カキノキの種子はタヌキのフンの内容物では最も大きな物体です。皮がとても固いので消化されずにそのままの形で出てきます。タヌキのフンは放置しておくとうちやもたせられて分解されてしまうものですが、カキノキの種子はいつまでたっても形を残しています。種子は芽を出して成長するという役割を持っています。簡単に分解されてしまわないようしっかりとガードを固めているのです。

しかし、大きくて固いカキノキの種子をなぜタヌキは飲み込んでしまうのでしょうか。タヌキの食事の様子を観察してみると、よくかまずに飲み込んでいるように見えます。タヌキの歯はイヌとほぼ同じ形で、肉食向きのつくりです。人間のように「よくかんで、すりつぶして」とい

う構造にはなっていないのです。「適度にかみちぎって、飲み込む」というのがタヌキの食事スタイルなのでしょう。

### 競争相手はハクビシン

カキノキなど果物を好むのはタヌキだけではありません。ハクビシンも果物が大好きです。しかも運動能力の高い彼らは木を楽々と登ります。タヌキも木に登れるはずですが、実際には地面に落ちた実をもっぱら食べているようです。

実のなった樹木になにやらあやしい動物が登っていたら、タヌキかハクビシンか確かめてみてください。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年11月号 通巻11号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 秋の夜、隣は何を食う人ぞ

### タヌキ(のフン)は何でも知っている？



左=エノキタケ、右=スライスされたシイタケ。どちらも黒く、干からびているが、これは乾燥させたため。しっかり乾燥させないと、カビが生えて後で大変なことになるのだ。フンから出てきた時、エノキタケはやや黒ずんではいたが、明らかにそれとわかる形状だった。採集地は東京都中野区。

さて、今回もフンの話です。キタナイな一と思われても、これを調べることがタヌキ研究の基本ですからやらないわけにはいきません。

東京タヌキは果実や昆虫などの自然物だけでなく、人間由来物、つまり生ゴミなども食べていることは以前にも紹介しました(2009年5月号)。今回紹介するのもそんな人間由来物なのですが、これがありふれた、しかし同時に奇妙な物体だったのです。

### エノキタケにシイタケ？

例によってフンを水洗いしていると、すぐに何やら細長い物体が出てきました。ひょろりと細い物の先っぽには傘。んん？ これって、スーパーでもよく見かけるエノキタケ？ そこらに生えている野生のエノキタケを食べたのかと思ってしまいました。色が白のひょろ長いエノキタケは人工栽培されたもので、野生のエノキタケは普通のキノコのような形をしています。ですから、フンから出てきたこ

のエノキタケは間違いなくお店で売っている物なのです。

「でも、中には似たようなひょろ長い野生キノコがあるかもしれない」と思われる方もいるでしょう。しかし、同じフンから次に出てきた物体によって私の推理は証明されました。フンの中から出てきたのはまたしても大きな物。しかも、これは、明らかに…シイタケです。しかもスライスされたシイタケ！ 野生でスライスされたシイタケなんかありません。タヌキが包丁持って切るわけがありませんし、タヌキがスーパーに行ってお買い物をしてきたわけでもありません。これは明らかにタヌキが生ゴミを食べた証拠と断言できます。エノキタケにシイタケ…採集したのは11月中旬…ということは鍋か？それとも茶わん蒸しか？ どこかのご家庭の食卓の風景が見えてくるようです。

この季節なら窓もカーテンも閉めているはずで、お庭にタヌキが来ても気づかないでしょう。ですからタヌキに食べ物を投げ与えた、ということではなさそうです。タヌキが生

ゴミを食べたのはかなり確実と言えるでしょう。

### タヌキは人間を観察している

それにしても不思議なのは、いつタヌキが生ゴミを食べたのかということです。東京都ではゴミの回収は午前中ですので、ゴミは朝のうちに出すことになります。夜行性のはずのタヌキが生ゴミを狙って朝まで待っていたのか、あるいは深夜にゴミを出す人がいることを知っているのか。いずれにせよ、タヌキは人間の行動をよく観察していることをうかがわせます。人間がタヌキに気づいてなくても、タヌキは人間のことをよく見ているようです。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年12月号 通巻12号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## ネコセンサー発動だニャ！

タヌキを探すにはネコを見ろ



[写真左]暗闇に黒ネコでわかりにくいですが、画面右方向をじっと見ている。こういう場合、その方向にタヌキがいる。  
[写真右]食事に夢中になって、気がついたらタヌキがすぐ後ろにまで迫ってきていた！ネコはあわてて逃走、タヌキはネコエサにありついた。センサーも役に立たないことがある(手前左が黒ネコです)。

ネコセンサーといってもネコ型のキュートでラブリーな機械のことはありません。念のため。

私が毎年タヌキを観察している場所はネコのエサ場です。毎週のようにそこに通う私はネコたちにとってもしっかり顔なじみになってしまいました。タヌキはいつも私の目の前にいるわけではありませんので、ネコといっしょにいる時間の方がずっと長くなってしまいます。

### ネコにはタヌキが見えている

タヌキがいつ現れるかは予測できません。たいていはネコのお食事タイムに合わせて出てくるものですが、それよりも早かったり遅かったりもします。来るのか来ないのかわからないタヌキを待ち続けるというのはかなり退屈なもので、世間的には「時間のムダ」と言われるのは確実でしょう。

そういう時はとりあえずネコと遊んでいれば良さそうなものですが、ここのネコたちはあまり人間慣れしておらず、さわらせてもくれません

(今年になってようやく1頭がさわらせてくれるようになった)。仕方がないので、ネコの様子を観察するぐらいで我慢するしかありません。こうしてネコを見ていると、時々不思議な動作をすることに気づきました。ネコたちが真っ暗な方向をじっと見つめることがあるのです。私の目には何も見えません。ある時「もしや」と思った私は、ネコの見つめる方向に懐中電灯の光を向けてみました。そこに見えたのはオレンジ色に光る動物の目でした。そう、タヌキがこちらの様子をうかがっていたのです。人間には見えていなくてもネコにはタヌキが見えるのです。

その後も、暗闇を凝視するネコの視線の先を調べてみると、かなり確実にタヌキを発見できることがわかりました。ネコはタヌキをとて警戒しているため、接近してくるとすぐに反応します。つまりネコはタヌキの居場所を知らせてくれるセンサーの役を果たしてくれるのです。これを名付けて「ネコセンサー」というわけです。タヌキの出現を事前に察知できるのは観察にとってあり

がたいことです。ネコ君たちには本当に大感謝しなければなりません。

### だからネコとは仲良く

ネコセンサーを活用するには、なるべく近くにネコに居てもらう必要があります。ですからいっそうネコたちとは仲良くお付き合いをしなければならないのです。しかしここのネコたちはあまり人に慣れそうもないし、エサ担当でない私が餌付けするのも良くありません。ネコづきあいもなかなか難しいものです。まあとにかく、ご機嫌を損ねないようにしなければ…。私とネコたちとの微妙なお付き合いは今後も続く予定です。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>